

地域の方々との日常的な交流こそが、大事なこと

4月から借家で障害児のいわゆる学童保育に取り組むメル友から、次のようなメールをいただいた。

「家賃を届けに、大家さんの家へ。

こどもたちのために、紙とんぼ（竹とんぼの紙バージョン）を作ってくださったとの話を聞き、こどもたち、みんなで大家さんの家に遊びにいきました。

そして、飛ばし方を教えてもらったり、折り紙を教えてもらったり。

全く関係なく大家さんの家にあるおもちゃで遊ぶこどももいるのですが、こうして、交流することがとても大切に思えて、行ける時は、大家さんの家に遊びに行っています。

大家さんも受け入れてくれるので、とってもうれしいです。ありがたく思っています。」

家賃を届けに子どもたちを連れて行っていることは前から聞いていたが、その実践の延長としての今回のメールに接し、ほのぼのとしたものが伝わってきた。

家を障害児の学童保育に貸してくれる大家さんだけに障害児への理解もある方と思われるが、それにしても子どもたちのために紙とんぼを作ってくださり、家の中まで子どもたちを迎い入れてくれる方はそう多くない思うだけに、ステキな話！

大家さんはステキな方のようなのだが、メル友の地域の方々との交流を念頭に置き、家賃を届けるというような日常的なささやかな実践を大事にしようとするメル友の姿勢もステキ！

障害児・者が共に生きる地域とは、地域にある福祉資源の活用という場所のことではなく、地域の人々との係わり合い、交流ではなかと当HPでもしばしば発信している。

それだけに、メル友のような日常的なささやかな子どもと地域の方との交流の積み重ねこそが大事な気がする。

開所してまだ5ヶ月なだけに、これからも地域の方々との交流を拡大し理解を深めて、「共に生きる地域」が形成されていくことを願っている。

阿部幸泰 （2009年8月29日 記）